

赤十字社の事業

日清戦争の事實は外國人の意見に出でて彼等を感服せしめたるもの多し最爾たる東洋の小嶋國、或は支那の所屬には非ずやなを疑はれたる日本國が世界屈指の大帝國と戰を交へて連戦連勝、敵をして屈伏せしめたるのみならず其一小嶋國が十萬に餘る大軍を海外に出して凡そ一年間の戰争に當り軍資に不足を告げざるのみか國內の經濟には毫も困難を感じずして多くます。奥魯の色を呈したるが如き異常の事相として驚くに堪へたる其中にも最も外人の心情を動かして我榮譽を博し日本文明の名をしてます。世界に高からしめたるものは赤十字社の事業なる可し蓋し外國人の中には耶蘇教國外の文明は文明にして文明に非ずとの考を懷くもの少なからず彼等の眼を以て見れば日本の如きは素と是れ教外の國にして其文明は眞成の文明に非ずとて之を擴張したる其日本國に何ぞ據らん意外にも世界博愛の主義に出でたる赤十字社の組織ありて其社員は人間の生命を救助するを唯一の目的として親しく戰地に入出し苟も負傷者を見れば敵味方を問はず病院に收容して懇ろに治療を施し一點の遺憾なからしめたるの事實は世界の明に認むる所にして彼等も始めて日本の教外國に非ざると悟り大に感服の意を表するに至りし次第なり抑も日本にて赤十字社の發起は明治十年西南戰爭の時に故岩倉公等の贊成を得て兵士の負傷者は官賊に拘はらず一様平等地に救助するの目的を以て博愛社と名くる一社を組織し社員を戰地に出張せしめたるを事の始めとして爾來次第に組織を擴張し明治十九年に至り萬國赤十字同盟に加入するふとなりて社名を赤十字社と改めたるものなり同社は特に皇后陛下の恩顧を蒙りうし社中に篤志の人も多くしてます。社運の繁昌を致し現在の社員は全國を通じて十六萬人の多さに及べりと云ふ只平時に於て同社は特に皇后陛下の恩顧を蒙りうし社中に篤志の人も多くしてます。治療に勉強盡力したるは勿論、或は醫術の開けざる占領地の土人等が病に苦しむと聞けば遠路を厭はず往診して施療を務めざる等、博愛慈仁の目的を實行するの一段に就ては社の全力を擧て遺憾なかりし其事實は同社の存在を世界に明にし隨て日本文明の光をしてます。

上海総理會社
馬關條約の結果として先づ支那の内地に起りしものは、外國人の全に係る紡績事業なり日本人は自から金葉の道を開きながら自から着手せずして他に先んぜらるゝとは實に遺憾の大失なりしに今四府下の商人が上海紡績會社を組織し進んで事を企つての計畫を決したる

上海紡織會社

は差や日本人の意を強うするに足るものにして我輩の大に賛成する所なり或は外國の土地に踏出し外國人と競争を試みる其勇氣は感服の外なしと雖も實際の結果は果して如何あらんなど竊に危むものもあるよし從來國內に蟄伏したる人々が海外の企業と聞て不安心に思ふは無理ならぬ次第なれども畢竟未だ我國力發達の實際を知らざるが爲めのみ論へば今回の戰爭に日本人の最も心を勞したるは海軍の勝敗にして黃海の一戰、我國の全勝と聞いて意外の思を爲したれども次第に實際の戰狀を詳にして勝敗の數を案するに及んで日本の勝利は決して偶然ならず事前の心配は畢竟我實力と敵の眞相とを知らざりしが爲めなりとの事實を了解したるが如し近年來我國力の發達は非常のものにして之を實際の數に徴するも疑を容る可らず僅に一衣帶水を隔つる支那内地の商賣企業に外國人との競争、毫も畏るゝに足らずして勝算歟々我に在るは明白の事實なるにも拘はらず幾千百年來蟄居の氣風は容易に脱するを得ざる其上に支那は恰も鎖國同様の有様にして他國人の内地に入込むを許さるが故に今日までは躊躇したるみどなれども戰勝の結果として彼の四百餘州を世界の表面に開放せしめたる上は日本人たるもの何を遠慮して他人の着手を傍観す可けんや上海紡績會社の計算は即ち此點に着眼したものにして充分の成算あるは決して疑を容れず我輩は國中の商賣人企業家が此例に徴ひ續々發企して彼の内地に我商權を伸張せんみとぞ切望するものなり

○臺灣通信

第四十二信

彰化附近の山水

して遂に内山と相向ふ予之を土人に問ふて人勢じんじょを記載きざいせんと欲すれども土人中文字ちゆうじ字じを甚おほめし常つねて之を置おき候まわとせして商移なまわ化か付ふ云いふ

川の記事を得たり吾人の筆に比すれば遙に
あるを以てそのまゝ譯載す

は山を負ひ海に面し神州に接して西に向ひ東にして、以て北に變じ南に延袤す全郡の綿亘千有餘里

通々其中に居るなり凡て山の陰陽にして人跡の無いもの統べて内山と稱す其脉絡相聯りて指しものれば、則ち當耳の事なり。多く更なる

此の御用の御船に發つて、東洋開拓
二山に入り大海中に護送す乃ち重洋を渡りて
籠に結體す（註曰く鯨籠船は海中で突起せ

蘭の故城あり云々今の砲臺は或は其舊跡たる
べからず一鷄籠島より港を穿ちて而して東す

籠山と曰ふ巍然高峻陡りて雲霧を挿む是れの太祖山なり大鷦籠山よりして西するを金包

す中かの破木力の西の小篠山と爲す
り蜿蜒して南に盛起せる大山中淡水港の東北
るものを大遜山と曰ふ其却て東に仄立するも

と曰ふ大遙よりして以南山勢漸く趨て内に入
結轍轂數ふるなしとの奔騰して南下するもの

乃ち特起せる大山空際に獨立するみどりの鷲
つが如し其高大にして巒然たるが故に之を名
鳥山と曰ふ是れ邑治の祖山なり（大鳥山は大

四十十分、是午時也。○漏刻五分、是午時也。○漏刻五分、是午時也。○漏刻五分、是午時也。○漏刻五分、是午時也。○漏刻五分、是午時也。

若くは牛馬頭より之を望むに巍然として雲際に聳ゆ我兵之を望んで形富士山に似たるものありと稱し常に之を目標と爲して進行するに便なりと云ふ大鳥山よりして脉を分ちて南下すれば則ち福晉萬霧二社斗截等の山透迤曲折水裏社に至りて止む之を邑治の護術と爲す八卦山の面前より之を觀れば礪として屏嶂の如く然り脉を落とし葫蘆嶺岸上社を過ぎて再び紅川頭山に起り北よりして南し大壯山に至て止むを大員山と曰ふ水底寮より轉じて大滿山に出で石崗仔より千練張に至りて脉を落とし脉を分ちて南下すれば則ち福晉萬霧二社斗截等の山透迤曲折水裏社に至りて乃ち高峯起り旋轉して行て集大山に至り圓秀特立するは則ち邑治の少祖山なりその巍峨莊重として獨り西に向て面し華蓋の若きものを華蓋山と名く華蓋より盤曲して出て中に平洋を開くが如く四山環繞して自ら一局を成すものは埔裏社なり埔裏社よりして内筋を過ぎ水社中に至りて大澤あり長十餘里、濶三四里許り津中小山あり珠仔山と曰ふ圓嶼水面に浮び潭水兩邊に分れて二色を爲す故に日月潭と名づく眞に海外の別一洞天なり日月潭邊水社の南より遙遙として下り特に主山を起すを集集と曰ふ集集大出よりして出脉せる諸山聯絡し西に向て狂奔して濶水溪の北勢に在るふと萬馬の奔馳して驕勦すべからざるが如し濶水庄後に至て洋と穿ち峡を過ぎて平を開くみど約十里之を遠望すれば則ち障勢を見る落脉分明目に在り近く之を瞻めば但見る一片の平鋪漠として踪跡を尋ねるふと草色の如し遙かに近效を觀れば自ら平に遇るなし松柏坑屈尺址に至て乃ち峰巒を起し別に一枚を抽き南下して以て水口を塞ぐ其大幹は則ち南より逆に北して竝起旋伏上岸平坦なり牛港嶺に至て又一山を起す山上の平處より之を望めば眞に山上に山あるものゝ如し中幹は北に向て行き兩旁分支下垂して大勢を統み之を觀るに恰も蜈蚣の如く一樣なり牛港より同安裝上に至りて俱に平を開き米粉藪山に至りて蜂腰を細束するが如くに二坪を陞起し獨膝を轉落して大坪を起す之を紅塗崎と曰ふ即ち四方大土屏なり彰化の諸山分脈皆より出づ是れ邑治の父母山なり紅塗崎山より分支して東北に向て去るものを内外快官山となす其分枝向ふ者は萬松坑山、内庄山、楓樹庄山貝仔内山等三家春庄前山に至て止む鳥頭坑山よりして西高峰接續獮仔藪山等白沙坑の溪南に至て止む獮仔藪山より分支して南に屏紅塗崎に至り其を龍頭山と曰ふ龍頭山よりして紅廻盤曲轉折項起し南よりして西高峰接續獮仔藪山に至りて屏を開き帳を列す復た東より出で西するものを九腦芙蓉帳と爲し更に出るものを虎山、巖山、馬仔山、龜山、李仔山、水坑山、埤仔後山、邱厝宅山、赤塗崎山等白沙坑の溪南に至て止む鹿藪山、坑仔内山、打銃山、番仔井山と爲す又西に轉じて南する者を待人坑山、觀音山と爲此皆邑治の護術なり而して觀音山は蔚然秀拔して以て學官の朝拱を爲すものゝ如し草子山よりして北に向て行き十六份山に至て門屏東峽、市仔尾より北面に轉じ南八卦草山に至て止む則ち邑治の主山なり又舊流の條下に記して曰く

若くは牛馬頭より之を望むに巍然として雲際に聳ゆ我
兵之を望んで形富士山に似たるものありと稱し常に
之を目標と爲して進行するに便なりと云ふ大鳥山よ
りして脉を分ち西するを大鳥山と曰ふ水底葵より轉じ
て大満山に出で石園仔より千絲張に至りて脉を落とし
葫蘆墩岸上社を過ぎて再び紅川頭山に起り北よりして
南し大壯山に至て止む之を邑治の護衛と爲す八卦山の
面前より之を觀れば儀として屏障の如く然り大烏山よ
り脉を分ちて南下すれば則ち福音萬務二社斗截等の山
逶迤曲折水裏社に至りて乃ち高峯起り旋轉して行て集
大山に至り圓秀特立するは則ち邑治の少祖山なりそ
の巍峨莊重として獨り西に向て面し華蓋の若きもの
を華蓋山と名く華蓋より盤曲して出て中に平洋を開く
が如く四山環遡して自ら一局を成すものは埔裏社なり
埔裏社よりして内蔚を過ぎ水社中に至りて大澤あり長
十餘里、濶三四里許り澤中小山あり珠仔山と曰ふ圓嶼
水面に浮び澤水兩邊に分れて二色を爲す故に日月潭と
名づく眞に海外の別一洞天なり日月潭邊水社の南より
遡迤として下り特に主山を起すを集集と曰ふ集集大山
よりして出脉せる諸山聯絡し西に向て狂奔して濶水溪
の北勢に在るみど萬馬の奔馳して驅勒すべからざるが
如し濶水庄後に至て洋を穿ち峽を過ぎて平を開くふと
約十里之を遙望すれば則ち障勢を見る落脉分明目に在
り近く之を瞞めば但見る一片の平鋪漠として蹠跡を尋
ねるふと草色の如し遙かに近郊を視れば自ら平に過る
なし松柏坑屈尺址に至て乃ち峰巒を起し別に一枝を抽
き南下して以て水口を塞ぐ其大幹は則ち南より逆
に北して旋起旋伏上皆平坦なり牛港嶺に至て又一山を
起す山上の平處より之を望めば眞に山上に山あるもの
も如し中幹は北に向て行き兩旁分支下垂して大勢を統
ふ之を觀るに恰も蜈蚣の如く一樣なり牛港より同安梨
上に至りて俱に平を開き米粉梨山に至りて蜂腰を細
束するが如くに二坪を陡起し鶴膝を轉落して大坪を起
す之を紅塗崎と曰ふ即ち四方大土屏なり彰化の諸山分
脈皆之より出づ是れ邑治の父母山なり紅塗崎山より分
支して東北に向て去るものと内外快官山となす其分支
西北に向て行くもの鳥頭坑山に至りて又分れて二とな
る其一は北より逆折し南草子山を過ぎて陡起す四方大
屏紅塗崎に亞ぐものを龍頭山と曰ふ龍頭山よりして紅
塗崎曲轉折頂起し南よりして西高峰接續猿仔梨山
に至りて屏を開き帳を列す復た東より出で西するも
のを九腦芙蓉帳と爲し更に出るもの虎山、巖山、馬仔
山、龜山、李仔山、水坑山、埠仔後山、邱厝宅山、赤塗崎山
等白沙坑の溪南に至て止む猿仔梨山より分支して南に
向ふ者は萬松坑山、内庄山、楓脚庄山員仔内山等三家春
庄前山に至て止む鳥頭坑山より分支して北行するもの
を獅仔頭山と爲し鹿藺山、坑仔内山、打銃山、番仔井山
と爲す又西に轉じて南する者を待人坑山、觀音山と爲
す此皆邑治の體術なり而して觀音山は蔚然秀拔して以
て學官の朝拱と爲すものと如し草子山よりして北に向
て行き十六份山に至て門屏東峽、市仔尾より北面に轉
じ南八卦亭山に至て止む則ち邑治の主山なり

○字號當日光圓 宋鑄金背銘(下光面) 午時五刻十分、十分二刻、午時五分、十二時半、子時二刻、二時半、三時半、大時半、九時十分、(ナシナカ) (ナシナカ)

○小山人水月齋(上)午前七時十分、九時十五分、午後二時二十分

卷之二

明治二十七

各國領事の
對

事の總數以英國
六百五十四名白

二十一分同

二詩三
三十
分三
詩廿二